

ACOS-2 移行に伴う NISMAIL/NST 移行作業（概要）

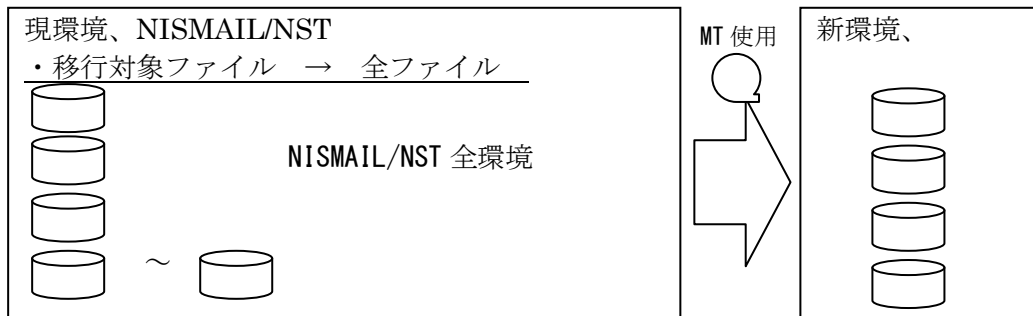
NISMAIL/NST（ACOS-2 版 NISMAIL）の ACOS-2 移行について概要を記述します。
移行作業時に考慮するポイントとしては、「環境移行作業」と「移行テスト」があります。

1. 環境移行作業

NISMAIL/NST の環境を移行する場合に大きく 2 通りの方法が考えられます。

① NISMAIL/NST 全環境のコピー

NISMAIL/NST は環境を全てコピーすることで動作します。



※ アロケート J C L は NST@UMW 内にある「PKGALLOC」を参照

※ ファイルのセーブ・ロードはファイルタイプに合わせて J C L を準備してください。

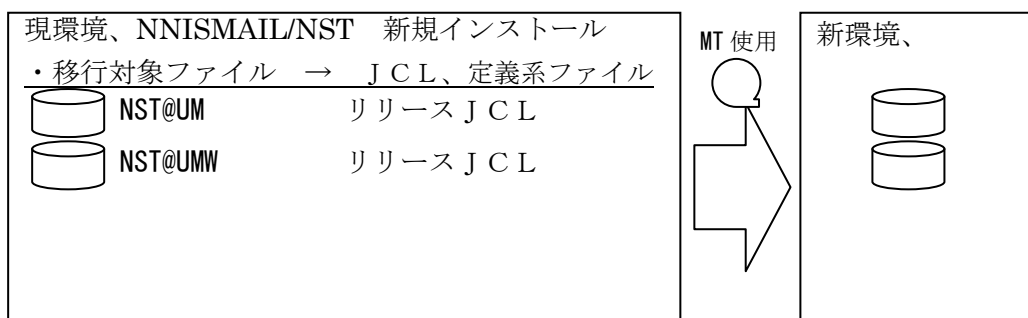
ファイル名	FILEORG
NSTTIF	INDEX
NSTDEF	INDEX
NSTJNF	INDEX
NSTJCF	INDEX
NSTHRF	SEQ
NST@LM	LMLib
NST@CU	CULib
NST@UM	UMLib
NST@UMW	UMLib

（ボリュームセーブによる移行でも可）

- ※ リリース J C L (NST@UM、NST@UMW) は MEDIA 名の環境が変わる部分については修正が必要です。
- ※ 現環境 ACOS-2 の SYS@UM 内にある「NSTJ01」を新環境 ACOS-2 へ移行する。
- ※ 現環境に送信待ちファイルが存在する場合は、そのまま新環境にコピーされます。
ファイル転送業務が全て終了した状態で切り替えを行なう。
- ※ 通常は評価期間の初めに一次移行を行い、切り替え日にリリース J C L 以外の環境につて最終移行を行なうことが考えられます。
- ※ 現環境 ACOS-2 のリリース J C L (NST@UM、NST@UMW) はメンバ追加・更新を凍結するか、新環境 ACOS-2 も合わせて変更する必要があります。
- ※ T C P / I P の S G 内容が変更になった場合は、\$NSTDEF を再実行する。また、システム更新の内容を確認する。

② NISMAIL/NST 新規インストール

新環境 ACOS-2 に NISMAIL/NST を新規にインストールし定義情報や J C L を再登録する。

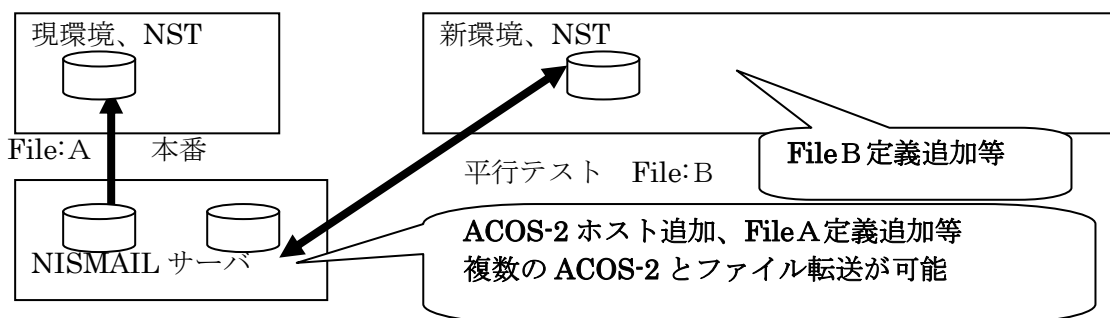


- ※ 新規インストールは「NSTインストール手順書」を参照
現環境からリリース J C L をコピーすることができます。(NST@UM、NST@UMW)
- ※ リリース J C L (NST@UM、NST@UMW) は MEDIA 名の環境が変わる部分については修正が必要です。
- ※ 現環境 ACOS-2 のリリース J C L (NST@UM、NST@UMW) はメンバ追加・更新を凍結するか、新環境 ACOS-2 も合わせて変更する必要があります。

2. 移行テスト

① 平行テスト

併設期間に現行機で本番業務を継続しながら、新環境でファイル転送またはトリガ受信 (JCL 自動実行) の確認を行う場合は、相手 NISMAIL サーバに新環境 ACOS-2 の設定を追加してテストを行うことになります。



② 切り替えテスト

本番切り替え時と同様に新環境 ACOS-2 の I P アドレスを一時的に現環境 ACOS-2 の I P アドレスに切り替えて確認を行ないます。相手 N I S M A I L サーバの変更はありません。
(切り替えテスト中には現環境 ACOS-2 は停止する)

以上